

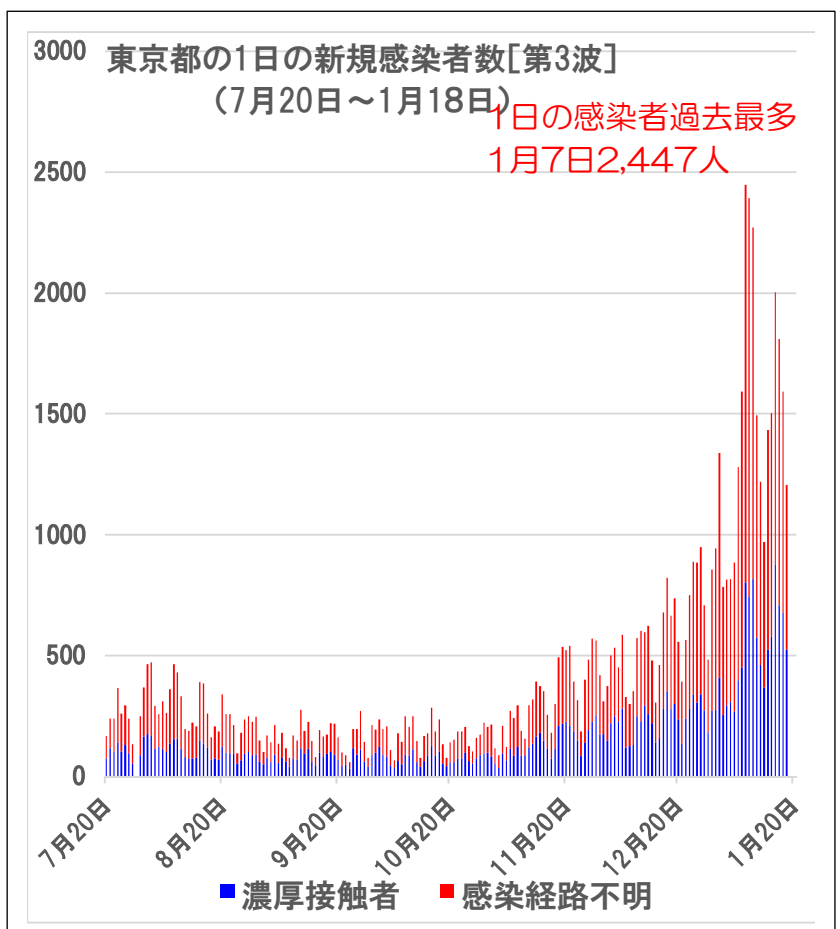
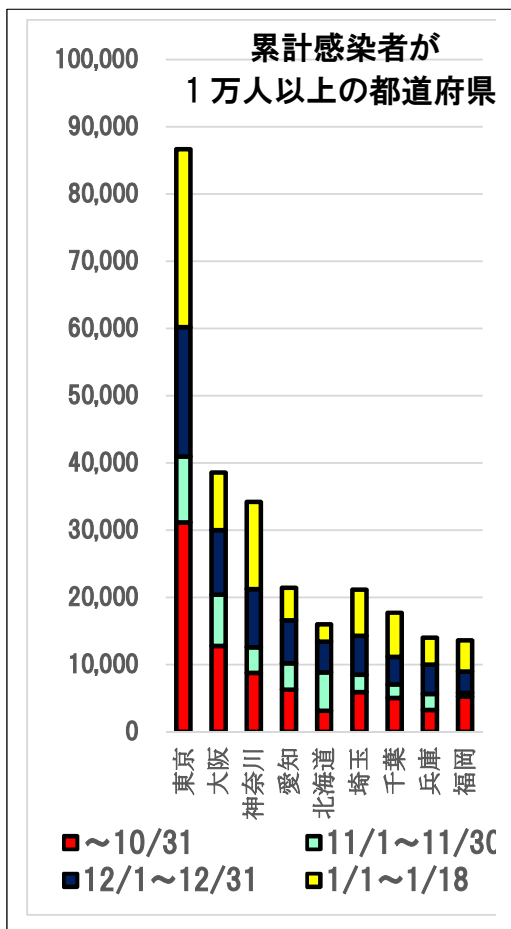
わがまちの自治会 八清親和会 トピックス

会員の元気を 八清地域の元気に

令和3年 第2号

◆【特集】新型コロナウイルス感染拡大情報と感染予防対策について[4] “会員を新型コロナウイルス感染災害から守り、一人ひとりができる身近な 感染予防対策を行うための、最新の感染情報です。”

新型コロナウイルスに対する「4つの慣れや視点麻痺」の危険！
今は感染から自分自身で身を守ることが重要！



会員の皆さん！

昨年1月16日に日本で最初の新型コロナウイルスの感染者が発生してから1年になりましたが、今だ 終息するどころか、新年早々から、感染が一段と猛威を振るって、第1波、第2波よりも格段の大きな波が押し寄せ、今まで感染の波が来ていなかった地方の県にも感染が拡大し、今や全国的な感染拡大になっています。

同じように東京都に於いても、今までは23区を中心に感染が拡大していましたが、第3波は比較的感染の波が少なかった昭島市始め、都下市町村諸島部にも大きな感染の波が押し寄せています。

再び、11都道県に「緊急事態宣言」が発令されました。しかし、昨年の「第1波」のように政府、東京都知事が思っているような国民、都民ならびに昭島市民や地域住民に危機感が薄く、緊張感がないように見受けられます。

なぜか！ それは「4つの慣れや視点麻痺」ではないでしょうか、

その1つは、「1年にも及ぶ長期間の新型コロナウイルス感染対策に対する慣れや、その感染の危険性に対しする恐怖感を感じなくなっている視点の麻痺」

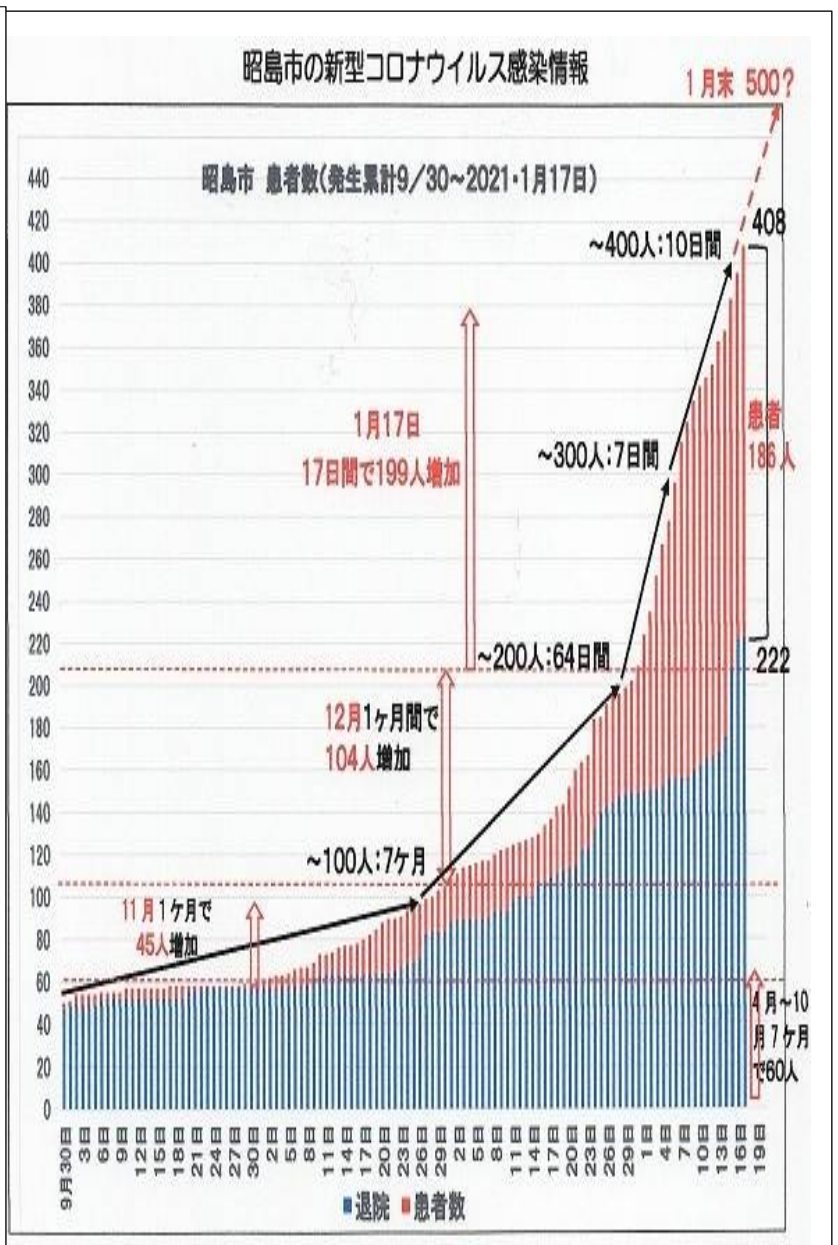
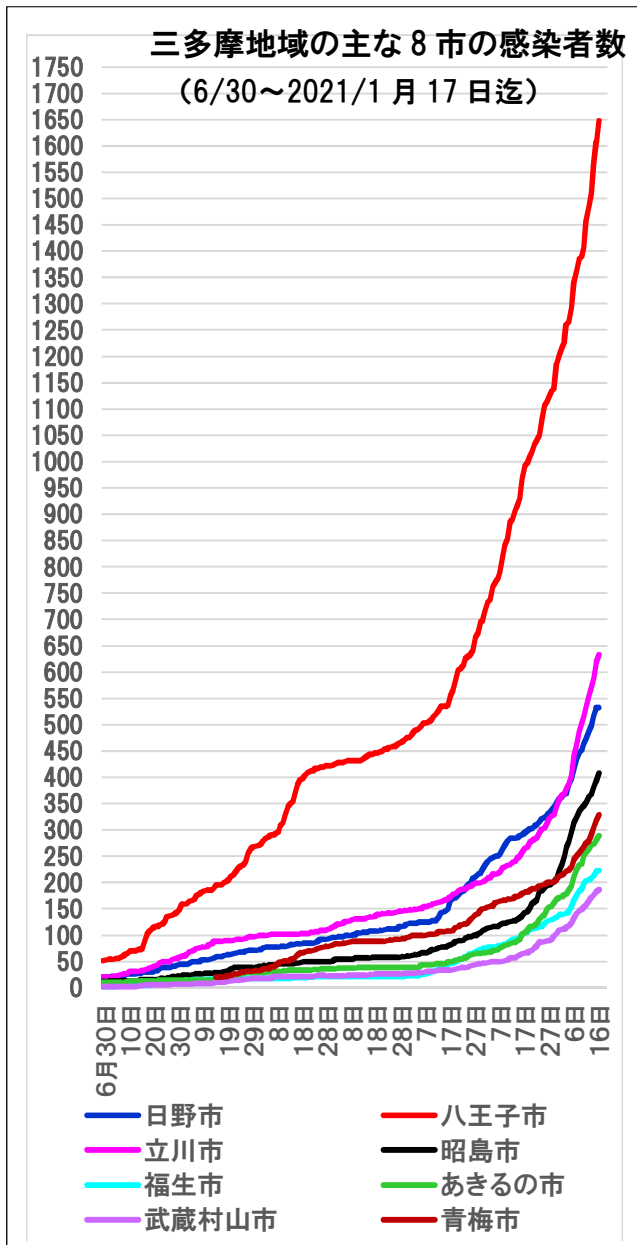
2つ目は、「連日の新聞・メディア・デジタル情報などで『過去最多』『過去最多更新』などと報じられている数字の慣れや、その数字や言葉に対する視点の麻痺」

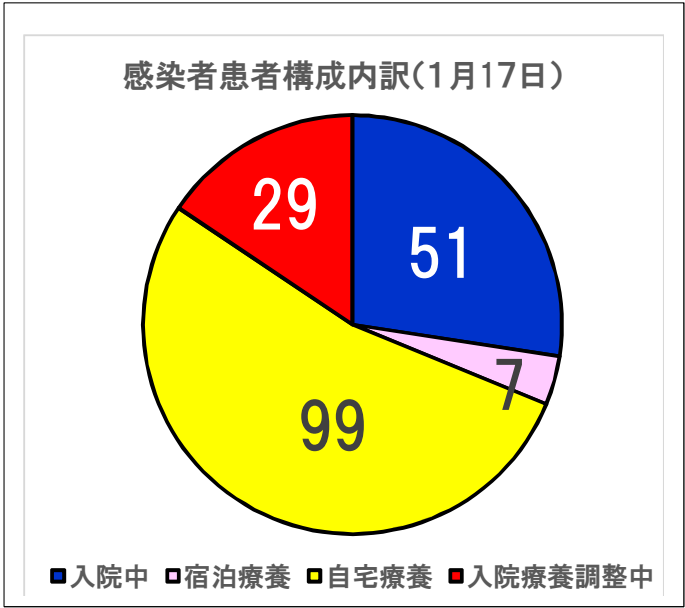
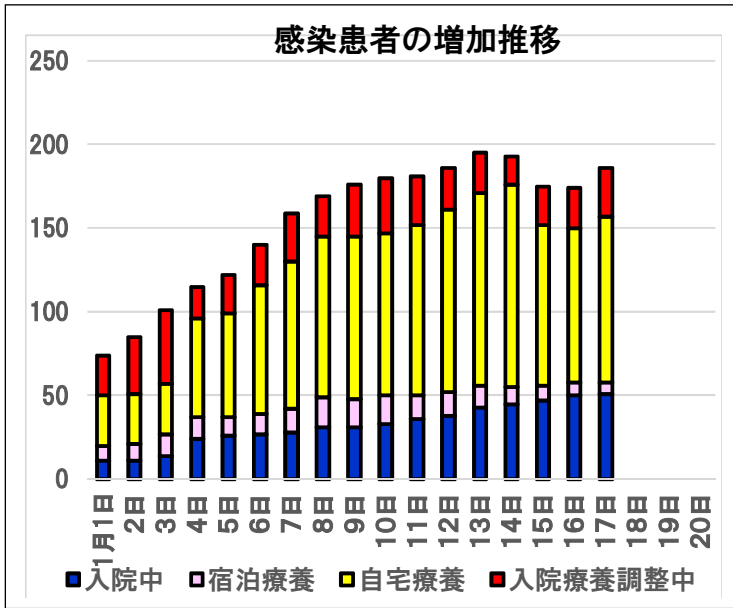
3つ目は、「自分は感染しないという慢心の慣れや、多少感染予防対策を守らなくても感染しないという視点の麻痺」

4つ目は、「連日、政府・東京都、メディア等での3者や現場との実態内容や発言・発信温度差を見せられ、聞かされている慣れや、一人ひとりへの説得力の無い、心に響いてこない発言・発信による視点の麻痺」

この4つが要因ではないでしょうか、しかし、会員の皆さん新型コロナウイルスの感染の危険性は、もはや対岸の火事ではありません！ 皆さんの身近にすでに迫っています！

即ち、全国、東京都、都下市町村諸島部、三多摩地域、会員が住んでいる昭島市に至るまで、予想以上の速度で、猛威で感染が拡大しています。





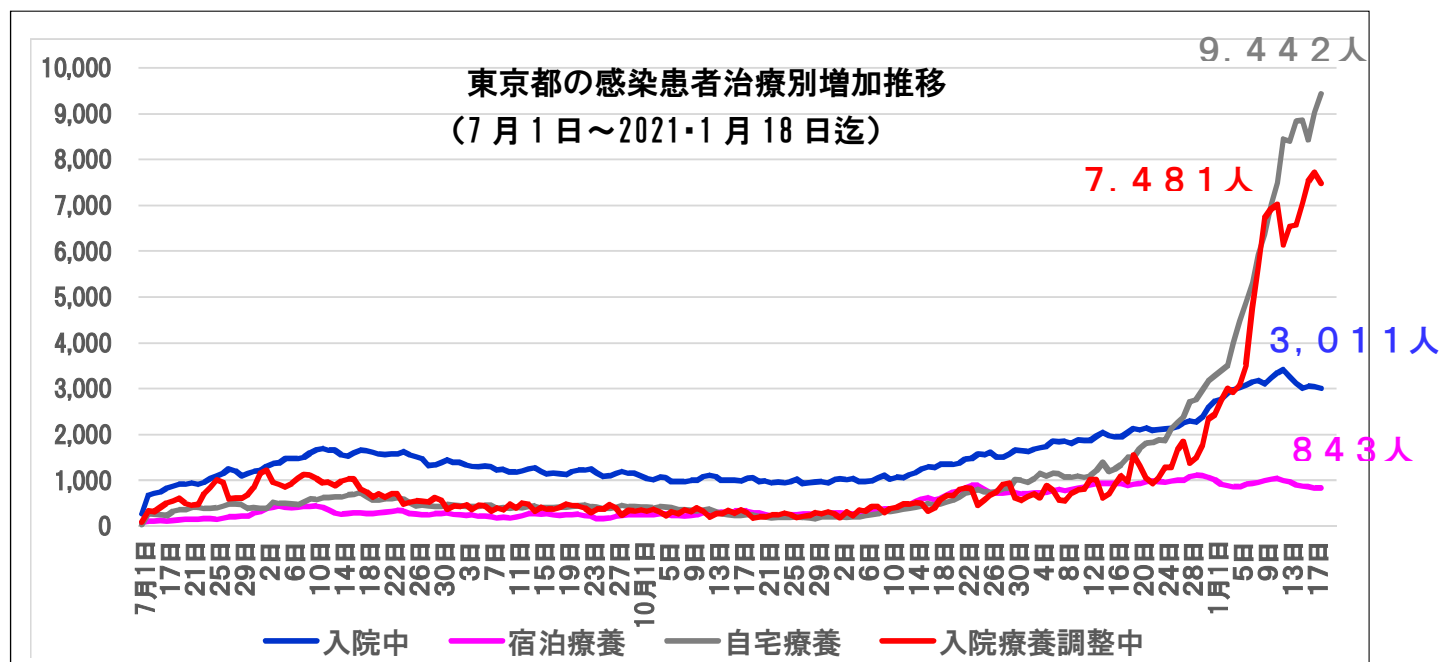
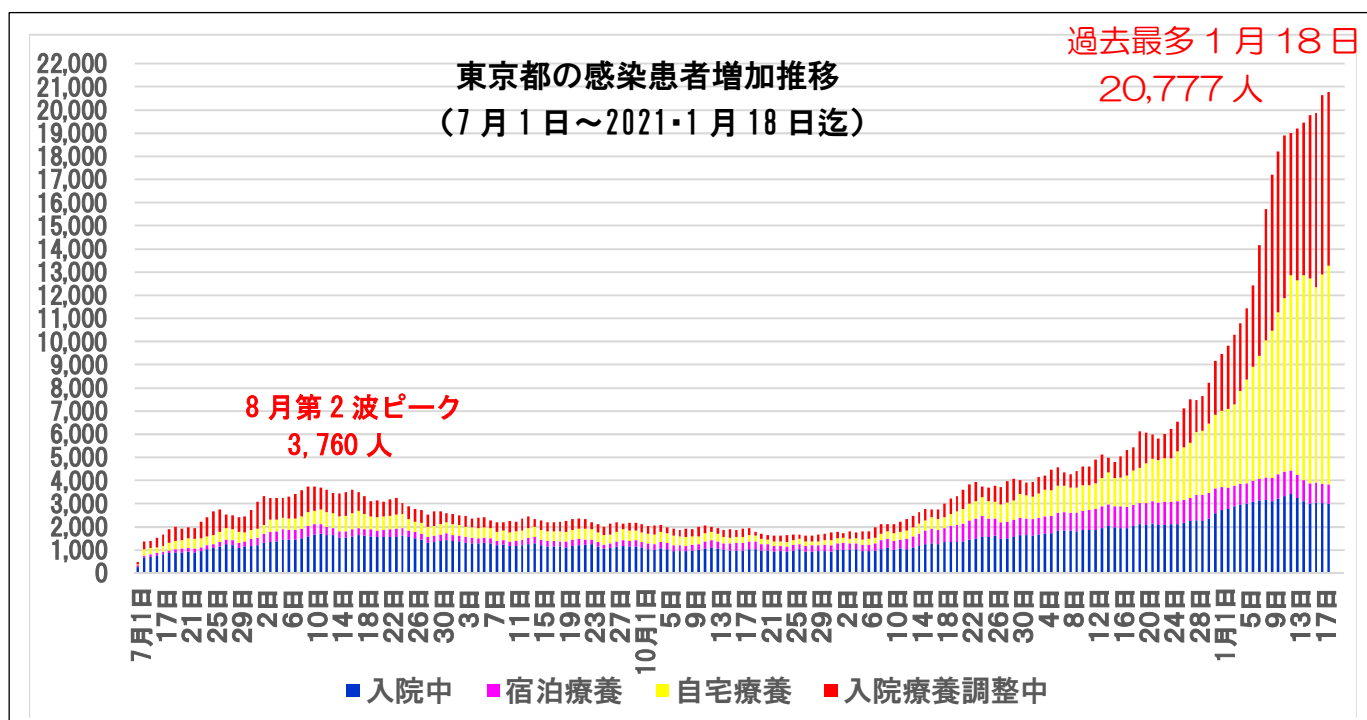
◇昭島市の新型コロナウイルス感染症の感染者増加・拡大の現状

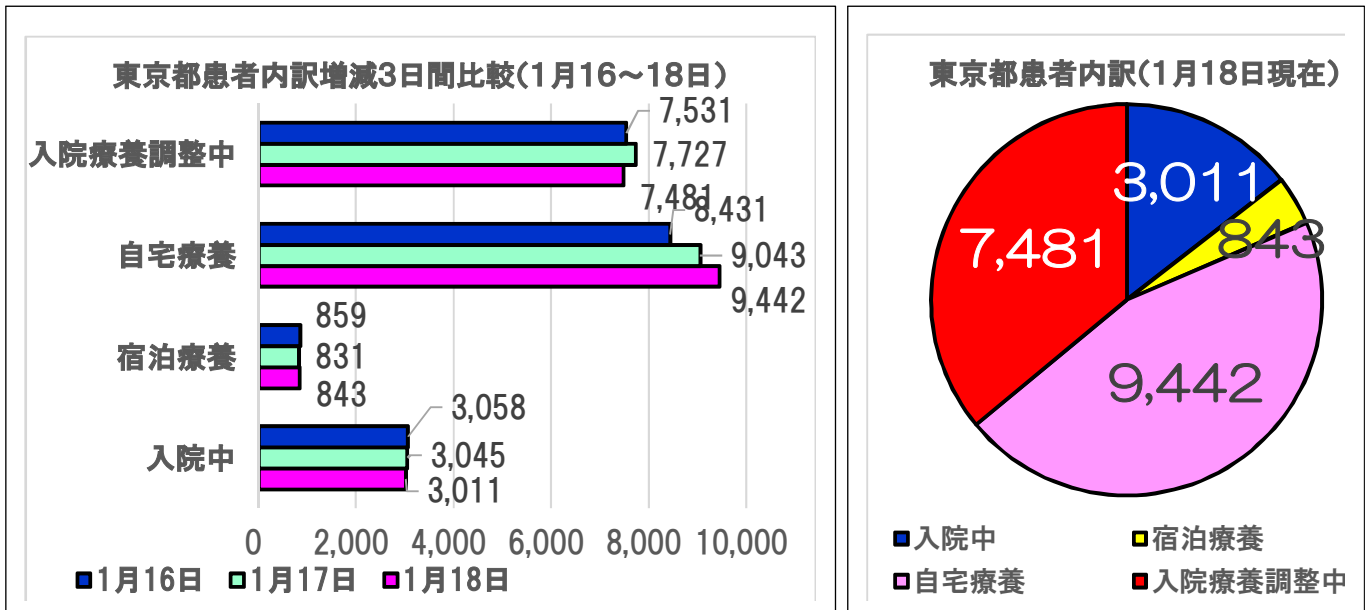
- 昭島市の感染者が驚異的な増加で拡大している。
 昨年（令和2年）4月4日昭島市で初めて感染者が発生してから100人に達する期間は7ヶ月（10月28日）を要したが、100人から200人の期間は僅か64日間（12月31日）、200人から300人の期間は7日間（1月7日）、300人から400人に達した期間は10日間と、感染者の増加ペースが日に日に加速し、増加の勢いが止まらない。
- 累計感染者数も、1月17日現在408人、10月末の第3波に入る前までの60人に対し、6.8倍と驚異的な増加である。
- 昭島市の新規感染者も、1月1日以降爆発的な増加で17日間で199人となり、すでに12月1ヶ月の1.9倍の増加である。
- 感染患者も17日現在186人に急増、12月31日時点の60人に対し17日間で3倍以上の増加である。
- この感染患者の治療内訳を見ても、自宅療養99人、入院・宿泊療養の受け入れ先決まらず、自宅待機状態の患者29人を合わせると7割以上が入院・宿泊療養施設外となっている。
 東京都の基準では軽症・中等症・重症者は、宿泊施設。医療機関への入院・療養となっているが、医療体制、宿泊施設体制、保健所業務の逼迫等により、昭島市の患者も自宅療養・自宅待機状態患者が全体の7割以上を占める。この患者の隔離が確り行われてないと「家庭内感染」「市中感染」の拡大、危険性の要因になる。
- このままのペースで感染が拡大し感染者が増加すると、1月末には昭島市の感染者は、1ヶ月で300人、累計感染者は500人を超えるものと思われる。感染患者も200人を超えるものと思われる。
 この状態を乗り越えるためには、また感染者を減らすには、今一人ひとりが“感染しない、感染させない”をより徹底し、感染予防対策を徹底し、これ以上感染者を出さない、増やさない、減らすことである。

◇東京都の感染者増加・拡大ならびに、感染者急増による医療体制、宿泊施設、保健所業務等の逼迫による患者治療の深刻化の現状

- 感染患者1月18日時点で過去最多の20,000を超え、20,777人、

- 軽症・中等症確保病床3,750床に対し使用率が8割を超えている
- 重症患者用確保病床250床に対し使用率は6割であるが、これ以外にまもなく人口呼吸器や、ECMが間も必要となるなど重症に準ずる患者が100人以上控えていると言う。
- 病床使用率が8割を超えるため、自宅療養者が9,000人を超え17日前（12月31日）2.8倍、9,442人に急増している。
- 入院・療養調整中と称する、即ち入院先・療養先が決まらない自宅待機状態の患者も8,000人に迫る7,481人に増加している。
- 病床逼迫により、重症化リスクの高い高齢者や持病のある人でも自宅療養となるケースが発生している。また容体が急変して死亡する事例も出始めている。東京都ではすでに4件発生神奈川県でも発生し1月に入り各地で目立ってきている。
- このように病床が逼迫していると、高齢者や持病のある人でも自宅療養になるなど、入院の選別が進んでいるのではないかと、即ちトリアージ(治療の優先順位)始まっているのではないかと。このように、東京都の病床逼迫が如何に深刻かわかりいただけだと思います。





この状況を乗り切るために、一人ひとりができることは、これ以上の感染者を出さないことである。

会員の皆さん！

今は、感染から自分自身で身を守るためにも、

新型コロナ感染拡大防止には、今一人ひとりがそれぞれなすべきことを行い、この難局を乗り切ることができるのです！

感染抑止は個々の行動にかかっています！

今は“できるだけ外出を避け、一人ひとりが人との接触を減らす行動で、一人ひとりが感染症対策を実行することで”

新型コロナウイルスの拡散を抑制し、減少させることができるのです！

この東京都、昭島市の感染状況を正しく把握し、理解し、参考にし、

“あなたを感染から守り、ご家族を感染から守り、高齢者を感染から守る”行動をお願いします。

◇感染予防対策の基本「4つ:MASK」

M asuku 「マスク」の着用:外出、会話をする時は、必ずマスクをつける。

A ruko-ru 「アルコール」消毒:こまめにアルコール消毒液で手指消毒をする。

S anmitu 「3密」の回避:密接・密集・密閉を避け、クラスターの発生リスクを避ける。

K anki 「換気」を行う:冬場は特に、窓やドアを開け、こまめに換気を

◇新型コロナウイルス感染拡大防止は、今や「国民」「お店」「医療」の、この三つが協力しないと、防止はできません！

以上

データは、回覧している間に古くなっていきます。最新のデータを見たい方は、感染情報は、日々変わっています。WEBサイトの「八清親和会紹介」で毎日メディアに報道されない、あるいはスポットでしか報道されない感染情報を「全国・東京都・昭島市別に“会員が知りたい、会員目線で、会員の感染予防のため”の詳細情報を解かりやすく、図・グラフで毎日更新し提供しています。最新の感染情報を見たい方は、**自宅のインターネットに接続されたPCあるいは、携帯のスマホから「ヤフージャパン、グーグルなどの検索エンジンから直接⇒『八清親和会』を検索してください。最新の情報は「トピックス」で、日々の詳細感染情報の図・グラフは、左側「地域からの伝言」ページをクリックして見てください。目次に続き感染情報が掲載されています。**